

令和3年10月6日(水)

第2回 南小学校学校運営協議会



南小学校の学校運営協議会の取組

- ☆口も手も出すコミュニティ・スクール（学校運営協議会）
- ☆「参画 協働 共汗 共創」の地域学校協働活動

協議会委員

自治振興会長、社会教育委員・地域学校協働活動推進員、学校支援コーディネーター、民生児童委員、見守りボランティア、認定こども園ぬぬぎ副園長、P T A 研修広報部長、P T A 事業部長、P T A 体育育成部長、校長、教頭、副主幹、コミュニティ・スクール担当教諭（主幹）、教育課程担当教諭、人権・同和教育担当教諭

協議内容

会議：年間3回（4・10・2月）＋ コミュニティ・スクールとしての協議（適宜）
協議内容：学校運営の基本方針の承認、学校運営への意見、学校と地域の諸課題について、学習支援・連携事業（行事）について、学校評価

目標・ビジョンの共有

自分や友だち、地域のよさに気づき、自ら学び続ける子の育成

- 1 コミュニティ・スクールの良さを活かし、子どもたちの学力（知）、社会性（徳）、健康・体力（体）、**物事に折れない心（心技）を養う。**
- 2 子どもを育てることは、我々大人が学ぶことでもあり、**大人同士が互いに学び合い協力し合って、未来の沼貫を担う子どもたちを見守り育てる。**
- 3 子どもたちが主役の「地域とともにある 地域に開かれた」南小学校運営に「参画 協働 共汗 共創」の活動に学校、家庭、地域が情報・課題・責任を共有し、絆と連携を深め、手を携え、**地域の率先者として積極的な活動を行う。**

目標・ビジョンの共有

4 開かれた学校づくりに向け、四者の相乗効果と関係改善拡大を進める

「子ども」 子どもたちの学びや体験 安心安全を地域の支援と支え合いで充実を目指す
自己肯定感や他人を思いやる心を育む

将来、地域の担い手として自覚を深めて自らの未来を創る

「教職員」 地域の理解と協力を得た学校運営の推進

地域の人材・資源・自然を活用した教育活動の充実を図る

子どもたちに向き合う時間の確保、主体的・対話的で深い学びと働き方改革の推進

「保護者」 学校や地域に対する理解を深めていただく

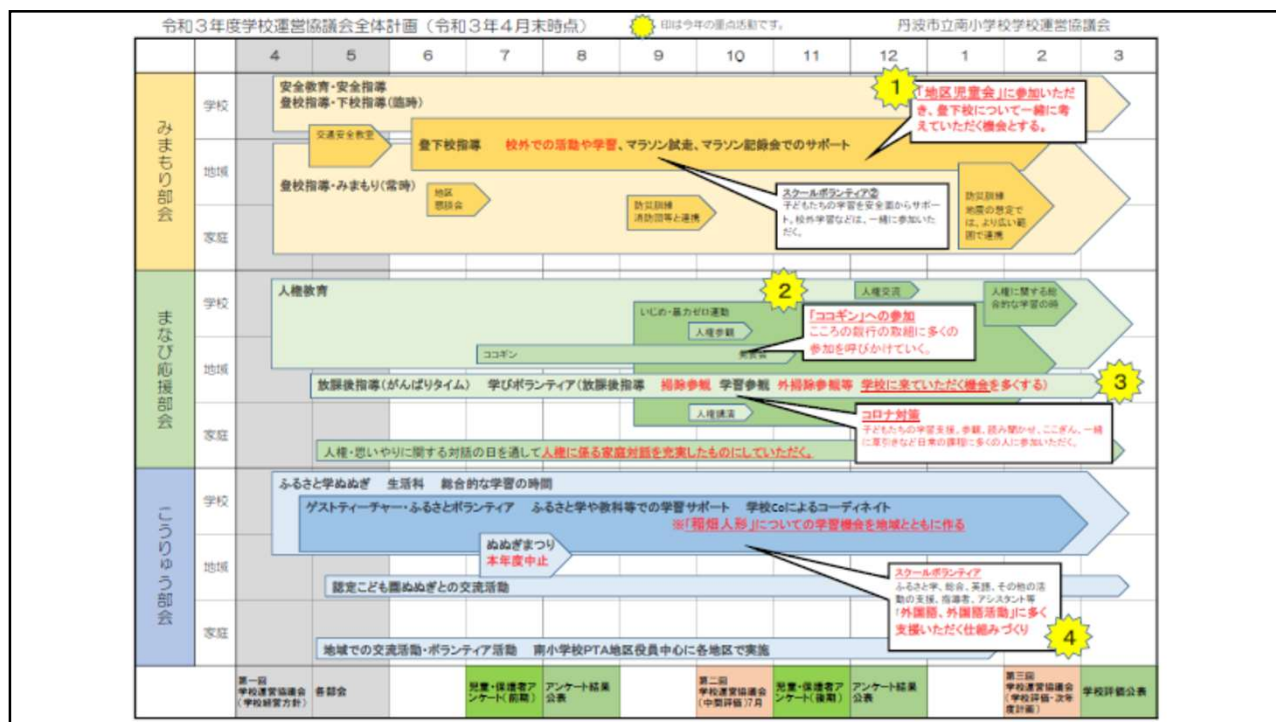
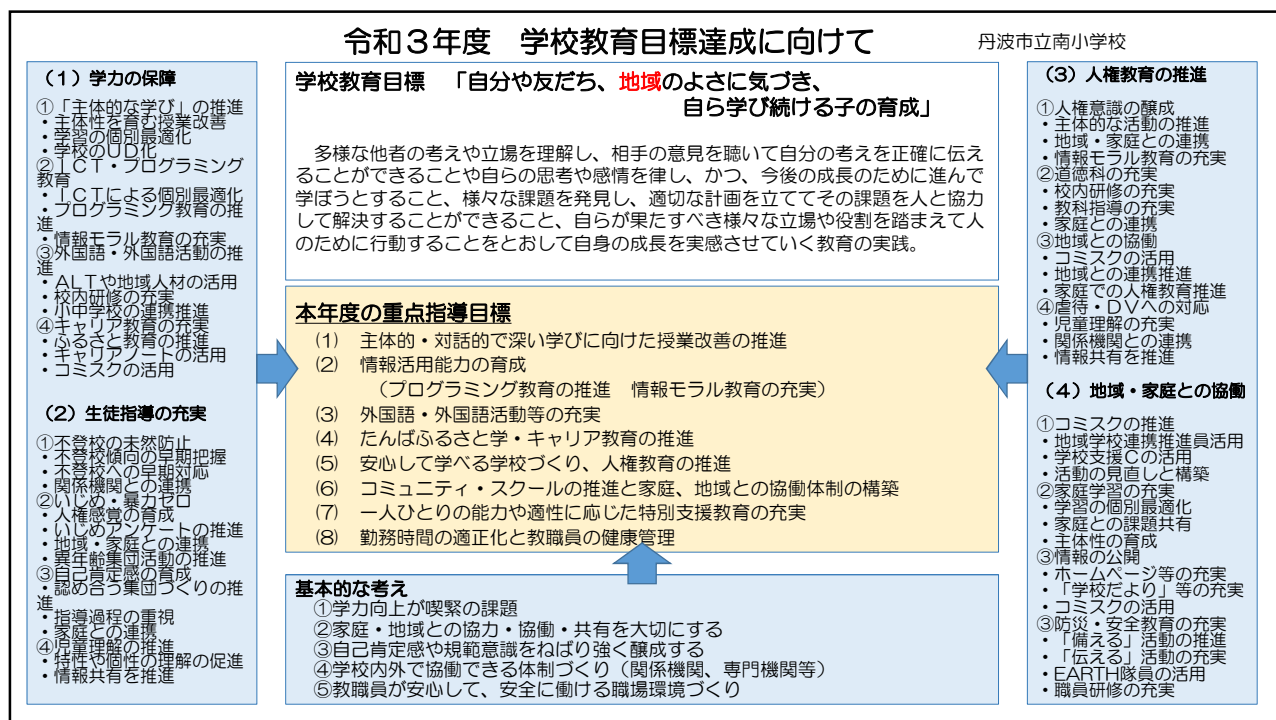
地域で健やかな子育てを見守る 安心な居場所づくりの提供

保護者同士や地域の人々と人間関係の構築

「地域」 経験を活かすことで生き甲斐につながる

子どもたちに接し、挨拶や笑顔、笑い声で元気が貰える

学校を中心とした地域ネットワークの形成と防犯防災等の構築



学校教育目標達成に向け地域と連携した取組

地域とのつながりで命を守り、学びを止めない、
たくさんの学び場が生まれました。

地域の方のご協力による消毒作業

毎週金曜日 15：30～

特別教室を中心に昨年度から継続してご支援



安全ボランティアの皆様による登校支援



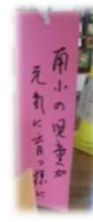
コミュニティ・スクール主催の交通安全教室



3,4年生対象の自転車教室
前日の会場準備、信号機等搬
出入をすべてコミュニティ・ス
クールの委員や地域ボランティアで対応。

当日は雨のため体育館で実施。
司会進行は地域学校協働活動
推進員。

地域ボランティアが用意された笹
に子どもたちや地域の方の願いを
込めた短冊を飾り、最後は、子
どもたちから地域の方へありがとうメ
ダルを受贈。



地域に学ぶ 令和たんば塾ぬぬぎ



2年ぶりの令和たんば塾には、21名の児童が参加し、自主学習や体験学習を通して、自立心や豊かな感性を育んでいます。7月26日～8月6日の期間に沼貫交流館にて5回にわたって実施されました。

自主学習では、地域の方にアドバイスをもらいながら夏休みの課題を進め、体験学習では、地域の大先輩から学び、瞳を輝かせ夢中になって取り組んでいる姿が見られました。



COCOGIN（心の銀行）



学校と沼貫地区自治振興会が共催して実施している、ここぎん：COCOGIN（心の銀行）身近な生活の中にある問題を人権の歴史学習や体験活動を通して学び、「他人事」ではなく「自分事」として考え、自分の生き方を育む学びの場です。学びが深まり、広がっていくことを願っています。



PTA・自治会の皆様による運動場整備



PTA・自治会の皆様による運動場整備



地域の方（PTA・OB等）による万国旗・テント設置



保護者・地域の方の大応援に包まれた運動会



ぬぬぎ子どもふれあい食堂

地域の皆様が親子でもお子様一人でも参加できるふれあい食堂を実施していただいています。囲碁ゲームや折り紙など愛情いっぱいのおいしいお食事と楽しい催しをご準備いただき、地域の子どもたちや大人の方などが集まり、楽しくふれあいの時間を過ごすことができます。ご家族同士、地域の方と子ども同士などぬぬぎ地域のふれあいの場としてなくてはならない大切な食堂です。



認定こども園との連携



月1回の認定こども園との連絡会、園と学校の先生の交流参観などをおしてぬぬぎ地域の子どもたちの育ち学びについて共有しています。子どもたち一人一人の個性をいかせる学び場と心地よい居場所づくりに向け、これからも連携を深めていきたいと思ひます。

がんばり学びタイム（放課後の学習支援）

地域の方に指導者としてお世話になり開催しています。計算力や漢字の書き取りなどのプリント問題に頑張って取り組んでいます。



地域の方のイングリッシュボランティア

本校では、ALT以外にも英会話に堪能な地域の方をイングリッシュボランティアとしてお招きし、児童が授業の中で英語にふれる機会を作っています。また、地域の方が、英語を楽しんでほしい、生き生きと活躍される姿に接し、外国語活動に積極的に取り組んでいこうとする心の育成を図っています。



地域の方の読書ボランティア

水曜日の朝の読書の時間には、読書ボランティアの方が1、2年生の教室で絵本の読み聞かせをしてくださいます。絵本の世界に浸りながら、心穏やかに一日がスタートできます。



地域のゲストティーチャー

ふるさと学や生活科の学習においては、地域のゲストティーチャーの方々から直接お話を聞く機会を頂きました。そのふれあいを通じて地域に根ざした文化や産業に目を向け、地域を大切に思う“ふるさと意識”を育んでいます。



JAさんによる農業体験



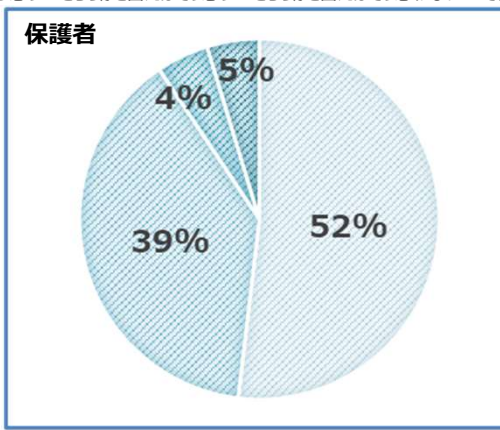
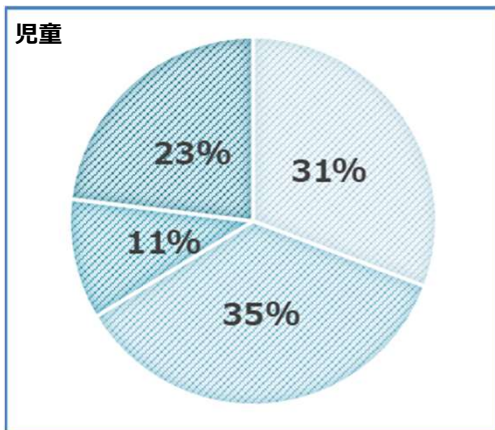
5月に「JA田んぼの学校事業」で田植え体験をした5年生が稲刈り体験をさせて頂きました。鎌を使った昔ながらの稲刈りを体験し、実りの秋を感じました。米づくりを通じて、食のありがたさと自然の大切さを学ぶ貴重な経験をさせて頂きました。

令和3年度 南小学校の学校評価（前期） 分析と今後の展開

学校評価パワーアッププランと児童・保護者アンケート結果より

質問：（児 童） 学校便り、学年通信、HPを読んだり見たりしている。
 （保護者） 参観日や学校・学年便り、HP等を見て、行事に参加する
 アンケート等で感想や意見を学校に届けている。

■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない

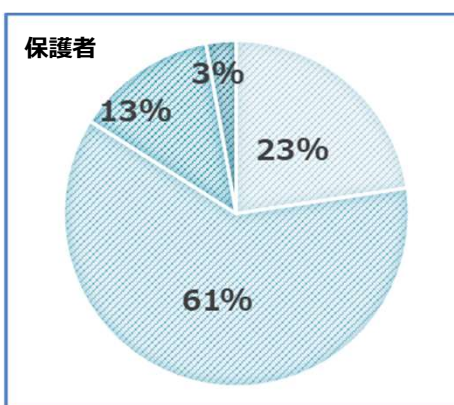
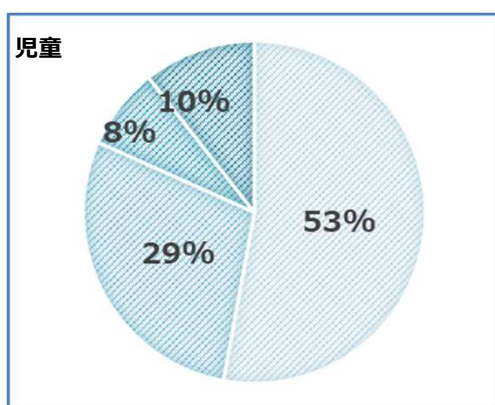


約9割の保護者が学校からの情報を見聞。
 本年度よりタブレットによるアンケートを実施。「紙媒体より回答しやすい」 効率化が図られ、回収率上昇。

引き続き、学校行事や学習活動の様子を積極的に情報発信

質問：（児 童） 自分から家庭や地域であいさつをしている。
 （保護者） お子さんは家庭や地域で自分からあいさつをしている。

■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない



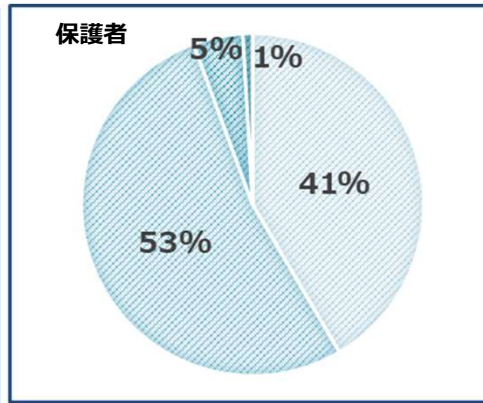
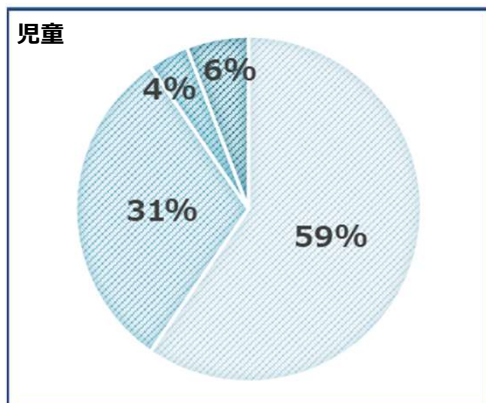
5割以上の児童が自分からあいさつができていると回答。対して保護者は2割程度と認識に差。
 保護者の期待も込めて「もう少し自分からあいさつしてほしい。」という思いが伺える。

登下校中のあいさつを児童一人一人が意識して自ら発していけるよう家庭・地域と連携し取り組みを進めたい。

質問：（児 童）地域のことを学ぶのは楽しい。

（保護者）学校は、地域の教材や人材を生かした学習を進めている。

■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない



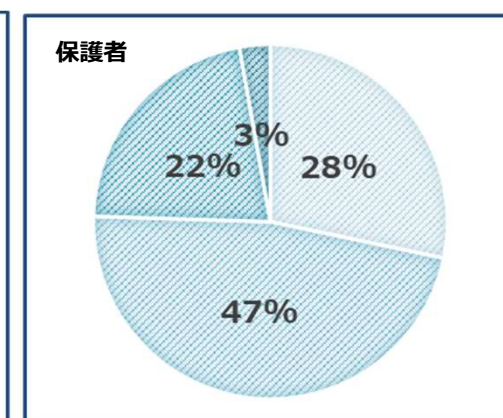
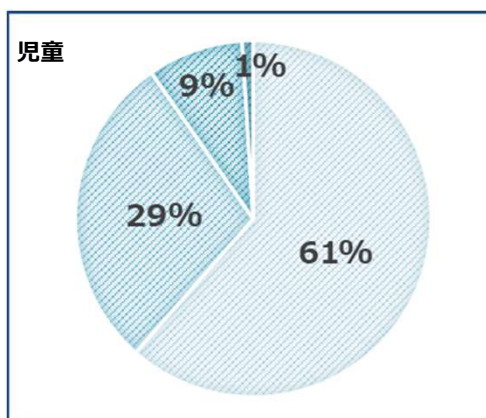
本校が進めている、ふるさと学習（地域のよさを学び、地域に対する理解と愛情を深める）について一定の成果あり。

地域の教育資源を持つ価値や先人の偉大さを学ぶ学習活動を取り入れ、「学校支援コーディネーター」と連携し、ふるさとへの愛着と誇りを育てる。また、学年の実態や学習内容に応じて、体験活動を積極的に取り入れる。

質問：（児 童）授業中、問題を一生懸命に考えている。

（保護者）お子さんは、学習に主体的に取り組んでいる。

■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない



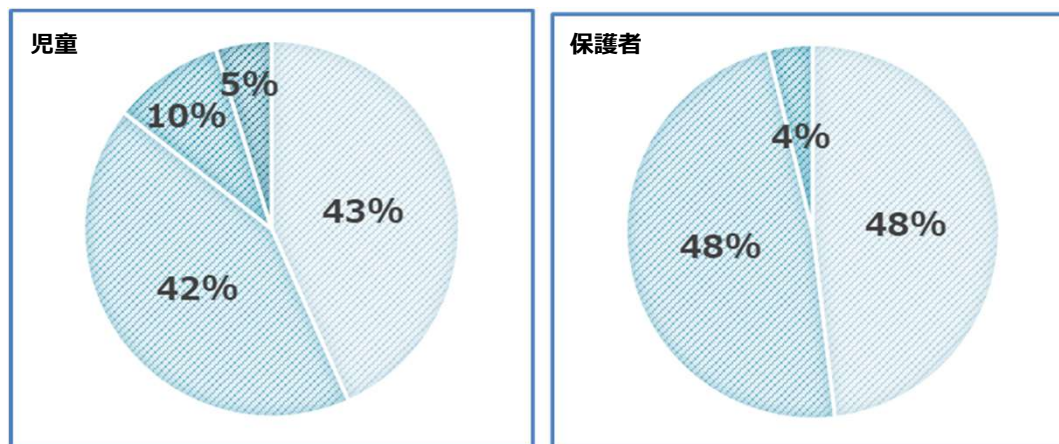
保護者アンケートから、主体的な学びにはまだまだ伸びしろありとの回答。

主体的な学びの実現には、生活習慣も含めた児童期に必要な基礎的・基本的な学力が必要。

「体づくり（姿勢）」「聞く力」を身につけ、朝のスキルタイムにタブレットドリル等を活用した基礎基本の学習に取り組む。

質問：（児 童）人に嫌がることをせず、誰に対してもやさしい言葉がけができている。
 （保護者）お子さんは、人を大切にする気持ちが育ってきている。

■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない

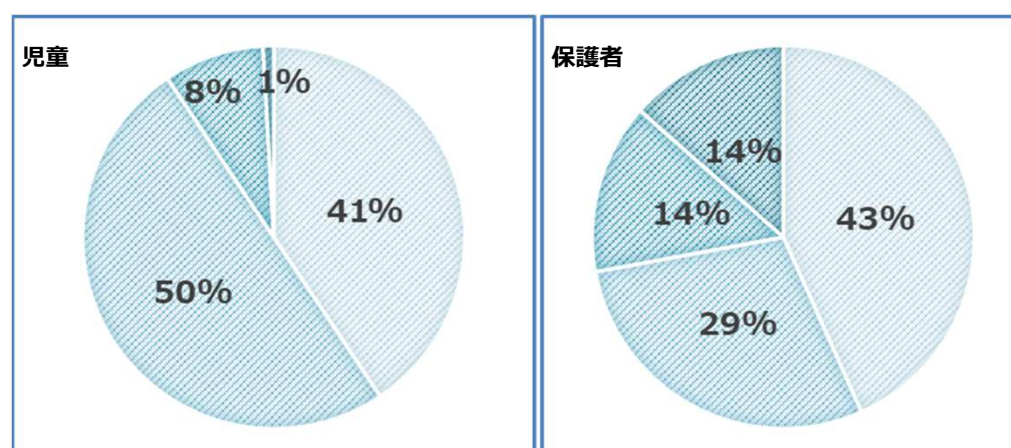


児童・保護者とも人を大切にする行動や心が培われてきているという結果。

地域とともに継続し大切にしてきた「COCOGIN」の取組等体験を通して学び、発信していく。
 コロナ禍における人権教育も含め、学校生活のあらゆる場面を通じた人権教育を進めていく。

質問：（児 童）自分にはよいところがあると思う。
 （保護者）お子さんは、自分のことが好きで、自分を大切にしている。

■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない



「よいところがある」と回答できている児童が4割程度で、保護者も同様の結果。

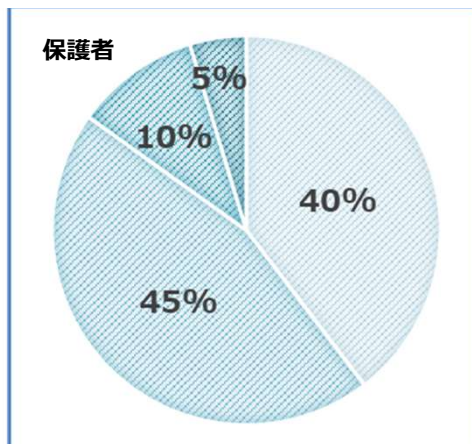
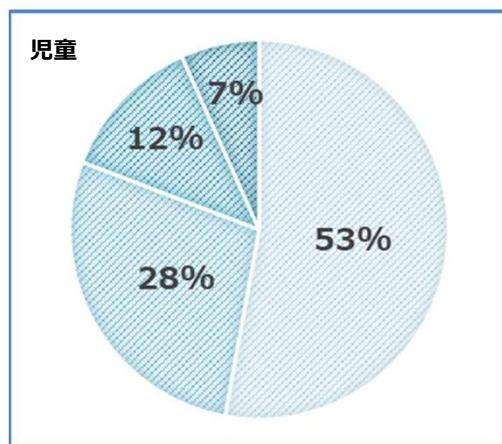
自己肯定感を高めるためには、自分が「良い」「得意」と思い行動していることを他者に認めてもらえることが大切。

子どもが持っている「良さ」や「得意」「強み」を最大限引き出す教育を家庭・地域と連携して進めていくことが大切である。

質問：（児 童）タブレットを使うとやる気が出て学習の内容がよくわかる。

（保護者）お子さんは、タブレットを活用することによって、学習への意欲や理解が深まっていると思う。

■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない



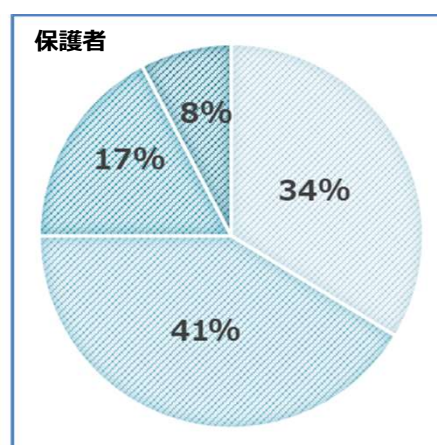
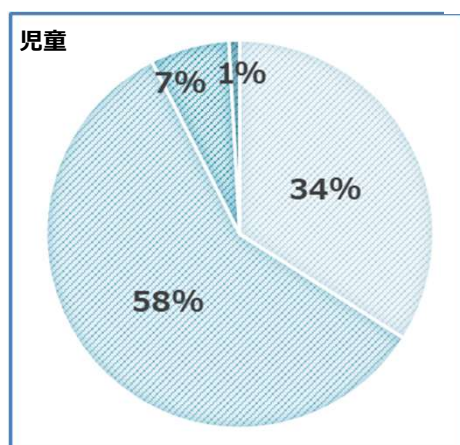
タブレット活用の効果に高い評価を得て期待度の高さを感じる。

「ICT」を効果的に活用することで、一斉学習、協働学習、個別学習において、きめ細やかな指導を行うことが可能となる。自分に合った自分の学びを生涯続けていくための基盤として、今後もICTの積極的な活用を進めていく。

質問：（児 童）担任以外の先生に教えてもらうとやる気が出て、学習の内容がよくわかる。

（保護者）多くの専科の先生方に教えてもらうことによって、意欲的に取り組んだり、授業内容をよく理解したりしていると思う。

■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない



保護者アンケートから、中学校への学びへのつながりとして専科の授業の必要性和期待を感じる。

適正な児童評価とつまづきを的確に押さえた個別支援を進め、児童理解とその支援を行っていく。

地域学校協働本部の機能を活かして

1 拠点の整備

体育館2階のミーティングルームの環境整備

学校ボランティア等の居場所、学び場、情報発信基地として活用

2 地域学校協働活動の企画・立案・実施

学校運営協議会で出された課題の解決に向けた具体的な方策を検討・実施

3 必要な人的又は物的な体制を確保

地域の教育資源等情報を共有し、学校を核とした地域づくりに反映

子どもも大人ももっとぬぬぎのことを知ろう、ぬぬぎを楽しもう

学校運営協議会・地域学校協働本部（活動）の充実・活性化

沼貫地区の将来ビジョン

「ここに住みたい『きらめく沼貫』」

南小学校の将来ビジョン

「この学校で学ばせたい。この地域で子育てがしたい。」